

自己評価結果シート【平成30年度】

1. 本園の教育目標

<p>○教育及び保育の目標や理念</p> <p>乳幼児の安定した生活の中で情緒の安定を図るよう努め、自己を十分に表現し発揮できるように配慮し、心身ともに豊かに成長することができるように努め、地域社会との交流や連携を図り、保護者に適した支援を行うと共に日々子どもたちの幸福の追求のために努力を惜しみません。</p> <p>○教育及び保育のねらいや内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを通して、学ぶ事の楽しさを知り、一つ一つの体験の積み重ねの中で、興味関心を広げる。 自ら考え主体的に物事に取り組み、解決していく力及び自主、自立、協力、協調の精神を育む。 音楽、描画、身体表現、造形に親しむ中で、豊かな感性と表現力の芽生えを養う。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針</p> <p>教育及び保育の目標</p>	<p>職員会議や研修報告を通じて、教育・保育方針、教育及び保育の目標をお互いに見直したり、風化防止に努めた。全職員が同じ意識になるように、また保育の向上を努められるようにしていく。</p>
<p>健康支援</p>	<p>早寝・早起き、しっかりとした朝食をとることについて、各家庭と連携をし、基本的な生活習慣の維持を図ってきた。まだ若干名出来ていない子どもがいるため、引き続き各家庭との連携の強化を図っていく。</p> <p>感染症予防については、全保連ニュースや佐世保市役所からの情報、インターネット等により情報収集を行い、玄関掲示などで情報提供を行った。</p>
<p>安全管理</p>	<p>幼児交通安全教育指導員により、交通安全指導教室を年に2回行い、交通安全についてのルールや、ルールを守ることの大切さを学んだ。パネルシアターや、映画、歩道を歩く体験など、様々な視点から交通ルールを学ぶことが出来た。</p>
<p>食育の推進</p>	<p>食担当者を中心に、畑づくりの計画を立て、種まき・苗植え・水やりの活動をした。また、年長・年中を中心に、芋掘り体験や田んぼでの苗植え体験、稲刈りから収穫までを体験することにより、食の大切さを体験を通して教育することが出来た。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>毎週1回、未就園児や地域の乳幼児を対象に、教育・保育相談や、親子の集い広場を実施した。地域の子ども及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設することにより、当該子どもの教育に関する各種の問題に気づき、その保護者からの相談に応じたり、必要な情報の提供や助言を行うことが出来た。</p> <p>また、子育て支援から入園する子どもが多くが、スムーズに園内</p>

	生活の移行や、園児の状況の把握を図ることが出来た。
教育・保育内容	年度途中より「認定こども園教育・保育要領の改訂」にともない「10の姿」を念頭において教育・保育を計画し実施してきた。職員研修や毎日の職員会議などで職員同士が意見交換をし、園内研修も行うことにより、定着することを図った。更に定着度を高めるために、職員間で創意工夫・討議をし、意識の向上に努めた。
特別支援教育	毎日の職員会議で、職員全職員が共通理解を持って保育にあたるよう、定期的に報告し合ったり、支援が必要な子どものサポートの内容を確認しあうことにより、相互理解を深めていった。また特別支援教育の研修も積極的に参加し、園内研修により他の職員への周知も図ることができた。また不透明な点が多い内容であるため、引き続き園内・園外研修等により、質の向上に努める。
職員の資質の向上	年に1回、専門の職種を指定し、それに応じた園外研修に積極的に参加して、職員の資質の向上を図った。また、専門の職種を勉強することにより、他の職員への周知の他、様々な職種の職員が意見を出し合うことにより、違う気づきをすることができ、より良い解決方法を導き出したりと、相乗効果が出てきている。職員間も意見を出しやすい風潮にあるため、積極的な意見交換も出来ている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・園周辺の自然、人材、行事や公共施設などの資源を積極的に活用し、地域の行事への参加等を通して交流や社会・地域の文化や伝統行事に触れることで、豊かな経験へとつなげていった。 ・3歳児以上は9時からの教育時間を設定することで、小学校就学へ向けてリズムを整えられた。 ・英会話、サッカー教室、体操教室、ピアノ教室の外部講師により、様々な分野で子ども達の可能性を引き出す手助けをすることが出来た。

3 今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討や、医療・福祉関係機関との連携や保護者との連携により、さらにその子どもにとってどうすることが最善なのかを検討し、子どもの能力の向上を引き延ばしていきたい。また、施設を整備し、遊びの中で様々な能力の向上に資していきたい。
第三者評価	評議員会後に、評議員により園の概要を見てもらったり、保育参観の時に、第三者評価をしてもらう等、第三者の観点から園の評価をしてもらい、更なる園の資質の向上を図っていきたい。